

## ⑤ 京都新聞出版センター 編

## 『名水を訪ねて 京都・滋賀健康ウォーク』

(京都新聞出版センター)

本学のある京都府やお隣の滋賀県には魅力溢れる美しい自然や、歴史豊かな文化財がたくさんあります。本書では京都・滋賀でウォーキングを楽しめる38のコースを紹介しています。

皆さん日々勉強にアルバイトに忙しい毎日を過ごされていると思います。多忙な日常の気分転換に、本書を参考にして一度出かけてみてはいかがでしょうか？そして是非京都・滋賀の魅力に触れてみてください。

291.62-Meis (H.M.)

## ⑥ 池内紀 著

## 『ゲーテさんこんばんは』

(集英社)

ゲーテといえば「ドイツ文学の太陽」と称される大作家。小学生時代の推薦図書リストに載っていた『若きウェルテルの悩み』、あるいは『ファウスト』など名作は数えきれませんが、ゲーテとはどんな人物だったのか。

大文豪ゆえの人間くささなのか。70歳を過ぎて17歳の少女にプロポーズしたり、ワイマール公国の首相というべき最高顧問官であった彼が突然偽名を使ってイタリアに逃亡したり等々。彼の明るく情熱的な人物像を紹介する格好のゲーテ入門書です。

940.28-Ike (S.N.)

## ⑦ 沖島博美 文・写真

一志敦子 絵

## 『北ドイツ=海の街の物語』

(東京書籍)

どうして日本人は南ドイツにばかり行きたがるのか、北ドイツに美しい町が多いのに、という疑問に共感できる本です。リュネブルクからリュネベックに至る約80キロの古き塩の道にある都市や北の島々を、一級建築士のイラスト、写真や解説から知ることができます。

今も独立州となってドイツ16州のひとつに属し、町名の前に「ハンザ都市」を掲げているハンブルク、グリム童話の「ブレーメンの音楽隊」のブレーメン、トマス・マンの「トニオ・クレゲル」に記されたリュネベック。17世紀後半まで500年も存続したハンザへの理解にも役立つ書物です。

293.4-Oki (S.O.)

## ⑧ ノーム・チョムスキー 著

山崎淳 訳

## 『9.11：アメリカに報復する資格はない!』

(文藝春秋)

2001年9月11日、ニューヨークの世界貿易センタービルが、テロリストに乗っ取られた旅客機の激突によって爆破された事件は、今でも映画の一場面のように信じがたい出来事でした。本書の著者チョムスキーは、世界的に著名な米国の言語学者であり、近年の新聞紙上で大江健三郎との往復書簡形式で連載された記事でも明らかなように、彼は世界政治を冷静に直視する政治学者でもあるのです。本書は、幾つかのインタビューを纏めたものです。チョムスキーの政治理論が他の政治学者と異なっているのは、彼が全ての実体を裸にして現実を正面から見据え、それに正面から取り組むことにしか人間の尊厳はありえないとする彼の信条が根底にあるからです。本書によってアメリカ民主主義の本当の姿が見えてくると思います。

316.4-Cho (H.T.)

